

国民平和大行進

組合旗県内リレー 6/16~6/21



ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ

〒520-0041
滋賀県大津市浜町1-38
滋賀銀行従業員組合
TEL 077-521-2775
FAX 077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/ffs/
e-mail:ffs@biwa.ne.jp

国民平和大行進は、“ノーモア・ヒロシマ!ノーモア・ナガサキ!” “核兵器のない世界を”と核兵器廃絶を訴えて、文字通り全国を歩く行進です。1958年6月に、被爆地広島から東京へ、1,000キロの道のりを歩く最初の平和行進が行われました。このときの参加者は、毎日2人、3人と増え続け、のべ100万人にもなりました。

以来この半世紀以上、雨の日も風の日も毎年休まず行進は続けられ、いまではすべての都道府県と7割を超える自治体を通り、毎年10万人が参加する国民的行動となっています。核兵器廃絶を願う人なら誰でも参加できる行動です。

核兵器のない世界を求める行動とつながって、5月から広島・長崎にむけて今年も平和行進がとりくまれます。みなさんもぜひ、ひとりでも、また友人・ご家族と一緒に、一歩でも二歩でも歩きましょう。



6月16日(月) 晴れ

今日も暑い日。関ヶ原公民館での岐阜県からの引継式は、カラフルで賑やかに「合唱団フレンディ」の歌で開会された。東京から通



今年のは、いつもとは違い、思いが強い。集団的自衛権原発、今、頑張らなければ。今年も体に気をつけて、来年も行進できるよう暮らしていきたい。 山崎幸雄

汚染水はコントロールされてると世界に向けて平気で嘘を言う首相
戦争に向けて突っ走る安倍首相
怒りと福島への連帯の思いを胸に歩きました。 清水綾子

6月17日(火)
曇り時々晴れ

今日は午後には執行委員会があるので豊郷までの参加となりますが、とにかく今年も平和行進の隊列に加わったことを嬉しく思います。今朝のテレビで集団的自衛権をめぐる自公の動きが報じられていました。私たちの運動が今ほど求められている時はないだろう。元気に頑張るぞ!



谷一明

蒸し暑い1日ですが、時々吹く風が気持ち良いです。愛荘町の町長さんの挨拶はやはり素晴らしい。集団的自衛権の批判、福井原発裁判の結果を評価し、関電の姿勢まで批判、福島の現状も話されていた。足に自信はなかったけど、あと午後からも頑張ります。

植木和美



6月18日(水)
曇り時々雨

またしても雨に出くわしてしまった。過去に何度も雨に出くわし雨男なのかと思ってしまう。今は雨を心配しているが、戦争中なら爆弾が降ってくる事を心配しないといけないと思うと

恐ろしい限りである。戦争のない平和な時代、今幸せを感じる。憲法9条で平和を守り、子ども達に平和を引き継いでゆきたいと思つた。1日の行進頑張つて歩きます。

八軒和也



6月19日(木) 晴れ

東京5月6日スタートし滋賀県に6月16日から21日まで金融労連の旗を通してつなぎ行進できそう!

いま日本では集団的自衛権容認で「戦争する国づくり」の動きで不安が広がっています。「戦争するな」「9条守れ」の声が大きくなつており、今年は若い世代や親子連れ参加が行進を盛り上げています。

多数の国民が「原発ゼロ」を求めています。天気恵まれ元気に参加できて嬉しく思っています。孫のためにも決意新たに行進していきます。

澤井正





6月20日(金) 晴れ

朝から暑い。ニュースで核廃棄物を地下300mに埋めるため政府は候補地を探しているとの報道。人間の浅知恵で処理ができると思っているのか、あるいは



国民に気安めでごまかすのか。また、武器輸出で他国にまで戦争をけしかけようとしている。安倍首相を先頭に右翼の暴走族がすべての赤信号を無視して暴れているが、これを止める警察はないのが今の日本の現状である。行進の沿道で理髪店のマスターが仕事の手を止めて店外に出て手を振っ

て貰ったり、多くの方が「ご苦労さま」と声をかけていただき気持ちよく歩きました。

小原信夫

少しでも参加しようと思田支所から青年会館まで孫と一緒に歩きました。歩き続けられるかどうか不安だったのですが、元氣そのもので、みんなから注目されていたようです。

浦谷貞子



团的自衛権をやめさせるためにもじつとしていられない。頑張って行進に参加しました。途中、栗津の山本武一郎さん宅前を通過、ご夫妻が迎え拍手で激励されていた。さすが元組員と大きな元気をもらいました。

古田雅二



6月21日(土) 曇り

今日は蒸し暑かったのですが、今回、当組合最後の平和行進でもあり、世界平和を祈願しながら、自身身に気合いを入れて終日目的地の山科ラクト公園をめざして無事行進することができました。今現在も世界では、ウクライナやイラクなどで国政の不安定により毎日と言って良いほど紛争

6月4日(水) 大津市内に於いて滋賀県労連と働くもののいのちと健康を守る滋賀県安全衛生学習会が開催され小原執行委員が参加しました。

労働安全衛生学習会

職場の安全と健康を確保 快適な職場環境の形成

講師の全労連近畿地協副議長宮木義博氏は「職場の安全衛生活動」をテーマに話をされ、はじめに労働安全衛生法の第2条に定められた「労働災害」「事業者」「労働者」定義を確認し、つぎに、同法第1条の定められた「労働基準法と相まって①危害防止基準の確立②責任体制の明確化③自主的活動の促進の措置を講ずる等その防止に関する総合的計画的な対策を推進するこ

とにより職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的」とする、この法律の持つ意義について述べられました。

措置義務者は事業者

また、第3・4条の「事業者等の責務」「労働者の責務」について明らかにし、措置義務者は事業者であるとし、第122条の両罰規定にも言及し、労働災害と企業の責任を示されました。最後に講師は、「政府は労働法制を変え労働安全衛生法をないがしろにしていくのではないかと述べられました。(小原)



第60回滋賀県母親大会



6月22日(日) 東近江市聖徳中学校において第60回滋賀県母親大会が開催されました。県内各地から900人が参加され、先輩組合員も多数が参加され大会の成功に尽くされました。

19の分科会で討論

大会の午前中は19の分科会に分かれて、子育ての問題、教育やいじめの

問題、仕事と生活の問題、障害者権利条約を暮らしの中に生かす課題、TPP 私たちの暮らしの問題など幅広いテーマで討論されました。

午後の全体会は聖徳中学校吹奏楽部の演奏ではじまりました。滝智恵子実行委員長は挨拶で、安倍政権の集団的自衛権の画策を批判し、「憲法を守り、平和な未来を子どもたちに手渡すために前

進しよう」と呼びかけました。つづいて運動交流が行われました。記念講演は講師の神田香織さんが「子どもたちに平和な未来を手渡そう」―講談師が語る原発ゼロ、福島への祈り―を熱演されました。

戦争を語る気迫に身震い

講演は神田さんが33年前社会派講師として歩むきっかけとなった、サイパン「ばんざいクリフ」訪問の話から始められました。ここは、日本軍1万人の兵士が第2次世界大戦末期に玉砕した地で、戦争を語る悩みの中で出会った「はだしのゲン」を「作者の中沢啓治氏の執念と情熱に触れ」講演にされました。その

が起こっており、貴い生命が失われています。何が何でも武力でなく、長時間かけても血を流さない「話し合い解決」を私たちは願っています。全世界が「和平は一つ」になるまで、この草の根の「平和大行進」において、

一場面が語られましたが音響と重ねられた語りは、すごい迫力でした。また、最近の「はだしのゲン」を抹消しようとする動きをきびしく批判されました。福島原発事故と重なる「チェルノブイリの祈り」は、神田さんが現地を視察し、今も多くの子どもたちが「複数の病氣」で苦しんでいるのを知らされた夫が7シーベルトの放射線を浴び、2週間後に死亡するまでの苦しみと体の変化を新妻の証言を元に講演にされたものです。地元開催であり父親センターに参加し、講演も聴かせていただきました。厳しさと、時に凄みのある語り身震いをして聞き入りました。(谷)



体が動く限り参加し、歩き続けてゆきます。車谷薫

いつもお世話になっております！昨日、平和行進で日野から竜王のコースがあり参加しました。役場前出発式には藤澤町長と杉浦議長が激励の挨拶がありペナントをもらいました。行進は日野町役場前から松尾非核記念碑を経て日野町商店街を通ってひばり公園まで行進しました。人数は少なかったですが久しぶりに平和行進の実感を身体に感じました。寺田源吾